

「高山市民の森 森林教室」実施報告書

令和3年11月17日

実施日時: 令和3年11月14日(日) 10時~15時

実施題目: 森の散策及びバウムクーヘン作り

参加講師: 主担当; 担当 小嶋博、越智寿美子

アシスト会員; 青野ダイチ、朝比奈恵美子、大石正教、小久保忠嘉、佐野文彦、
杉山雅章、高橋健三、矢下博

参加者: 8家族30名(内訳:大人15名、子ども15名)

イベント概要:

(午前:森の散策、午後:バウムクーヘンづくり)

参加者30名を6班に分け4名~6名が一つの班となるようにした。午前の散策も午後のバウムクーヘンづくりも同じメンバーで活動してもらうことにし、それぞれの班にインストラクターを配置した。

午前の森の散策では、それぞれの班をガイドしたインストラクターによる森の役割の解説や、自然の中での五感を使った体験指導を皆さん楽しんでくれた様子だった。晴天にも恵まれ、山頂を目指した班は頂上から富士山、それに賤機山、谷津山、有度山などの里山と静岡の街並みを展望できた。散策中にはフユイチゴやガマズミの実を食したり、キハダの樹皮を少しかんでその苦さを体験してもらった。また、高山ではあちこちにみられるクロモジの香りや、ミズメ、ヤマコウバシ、サンショウ、それにイヌザンショウの香りを体感したりもしてもらった。インストラクターからの話で面白かったのは『山には神様がいて・・・』といったお話で、動物、植物、人間もみんな水の循環の中で生きており、その中で森は大切な役割をしていることを分かってもらえたことだ。その他、ルーペを使ってスギの葉を観察し、そこにガラス質の成分があって葉っぱが丈夫になっている理由を知ってもらったりもした。池にいたイトトンボの捕り方を教えてもらって、今までできなかったトンボ捕りができたと喜ぶ子もいた。

午後のバウムクーヘンづくりには、昼食後すぐに取りかかれるようスタッフが午前中から材料などの下準備をしておいた。参加者には、鍋やボールに生地となる小麦粉に卵・バター・牛乳を入れてかき混ぜる作業から始めてもらった。各班には、内側の節を抜いた約1.6mの長さの竹を用意し、半切りのドラム缶で作った竈に予め火を起こしておいた。この竹に出来上がったバウムクーヘンの生地を、塗っては火にあぶる作業を何回も繰り返してもらった。表面が薄茶色になったものを火から下ろし、両サイドを切り落とした年輪状の中央部分を竹から外して完成させた。子どもたちは最初のうちは興味津々で一生懸命やっていたが、途中からは飽きてしまい鬼ごっこに夢中だった。結局殆どの班では大人が焼き上げたバウムクーヘンだったが、いざ完成という時には子どもたちの歓声が上がった。多くの家族が写真を撮っていた。準備した紅茶や緑茶を飲みながらバウムクーヘンを囲んで、どの参加者も満面の笑みを浮かべていた。中には丸ごと大事にかかえて家に持ち帰った家族もいた。

各班の散策中の様子

(1班; 青野、大石対応) 登り口で紅葉が見事なマンサク、メグスリノキ、鮮やかに色づいたタラノキの実を説明した。スギ、ヒノキの林の登り道では、子どもを励ましあいながら上がっていった。途中、もうすぐ食べられる実を付けたフユイチゴを見てもらった。下を見ていることが多かったこともあり、ヒノキ、スギの実を拾ってもらったが、風に飛ばされた葉に実をつけた枯葉を手にして、リースの飾りに使えると喜んでいった。緩やかな坂道にたどり

着くと、拾った長い木の棒で二人の子どもが電車ごっこをやり始めて夢中になってしまった。拾った木の棒をあそびの道具にしてしまうと、子どもは遊びの天才だ。それまで、先に進むのに苦労していたが、遊びながら親の先に行っていた。頂上では富士山もはっきり見えて、お母さんが下の子に、あれが富士山だよと教えていた。見晴らしの良い景色の中で賤機山、谷津山、日本平を説明した。アジサイの花のドライフラワーが見事だった。帰りは、急な下り坂を避けてなだらかな坂道を下った。下に着いた時、お母さんに抱かれていた下の子はいつの間にか寝てしまっていた。(文責;大石)

(2 班) 小学 2 年と幼稚園の元気な女の子とご両親の4人づれ、”森の恵み”前の急坂経由で山頂を目指した。女の子二人は最初あまり元気がない様子、しかし坂を登ってすぐフユイチゴの実を見つけて食べてからは、二人とも元気一杯、勢いを抑えるのに大変だった。子ども達に「山には神様がいて、時々山の木の本数を数えているのだよ。区切りのいい本数になったときに忘れないようにその木を捻って目印しておくのだよ。どこかにあるかな?」と問うと「枝が捻れている木が学校にあったよ、あそこにもあったよ」と真剣に答えてくれた。更に「木もお話しているんだよ。虫が葉を食べに来ると、最初の木は皆に特別な香りを出して注意して!すると、それを知った木もこっちに来ないと虫の嫌う香り をだして!撃退するんだよ」と説明すると、真剣な眼差しで聞き耳を立ててくれた。途中で水分補給、皆さんに用意していた山椒・ミズメ・ヤマコウバシ・クロモジの切片的の香りを嗅いでもらいフィトンチッドを説明し、併せて人も動物も水の循環の中で命を貰い、森はその中で重要な役目をしている事を知ってもらった。帰路子ども達は綺麗な大きい葉を拾い、大事そうに持っていた。今日の散策の中で“自然は大切だ”の意味をなんとなく感じてくれた様だった。(文責;矢下)

(3 班) 8歳と4歳の女兒、そのお母さんと祖父母という3世代5人の班で、高山には初めてということだった。子ども達は元気そうなので、山頂までチャレンジすることにした。一番年少の4歳の子が特に元気で、「わたしが先に行く」とお姉ちゃんを牽制しながら山路をぐんぐん登ってくれた。危ないので手を取りながら歩いたが、そのペースにこちらの息が上がるほどだった。「ちょっと待って。お婆ちゃんが大変そうだから、少し止まって待とうよ。」と、所々で立ち止まってもらいながら歩いた。そんな訳で、山頂には一番に着いてしまった。雲はあったものの富士山もしっかり姿を現し、見晴らしはよかった。遠方にはご自宅があるという清水の街も見え、その眺めをたっぷり楽しんでもらった。

無論、自然にも親しんでもらった。「ドングリ探し」のイベントに他で参加したこともあるということで、子ども達は木の実や落ち葉にも関心を示してくれた。「サッカーボールが落ちているから、探してみよう」と水を向けると、早速ヒノキの実を見つけ、用意したポリ袋に集めていた。ガマズミの実を試食して貰うと、「おいしい」。普通、子ども達はガマズミの実を美味しいなどとはめったに言わないし、口に入れることすら躊躇するものだが、こうして喜んでもらえるガイドし甲斐があるというものだ。時間もたっぷりあったので、大人達にはタラノキ、オニグルミ、サンショウなど、「食べられる木」も見てもらいながらゆっくりと下山した。途中でカモシカに出会ってびっくりしたり、ちょっと気になる落ち葉を集めてみたり、山登りで自然に触れてみた2時間だった。(文責;小久保)

(4 班) 夫婦と子ども 3 人のグループだった。一番下のお子さんが2歳だったので、山頂迄は無理と判断し中間展望台まで行くことにした。駐車場までは、路上に落ちている落ち葉を拾いながら歩いた。木の葉には様々な色や形があることを知ってもらった。子ども達は、用意していたポリ袋に落ち葉を入れ、満足そうだった。池では「モリアオガエル」の話をしたが、「モリアオガエル」のことを知らなかったのも、「森の恵」展示コーナーに模型が

展示されていることを紹介し、後で観てもらおうことにした。足元に注意しながら坂道を登り、中間展望台に到着。水分補給しながら、しばらく休息することにした。近くに、スギとヒノキがあったので、大人向けに両者の違いを解説した。

帰りは緩やかな坂道を下りながら池に戻った。途中、クロモジの匂いを嗅いだり、ホオノキの葉を拾ったりした。池に着くと、イトトンボが数匹で低空飛行をしていた。飛んだり、木に停まったりを繰り返していた。早速、子ども達はトンボ捕りを始めたが捕れません。そこで、捕り方を教えると、簡単に捕ることができた。一番上の6歳のお姉ちゃんに続いて二番目の4歳のお兄ちゃんも捕ることができた。初めての体験だったようで、捕まえた時の満足そうな笑顔が素敵だった。その後は、フユイチゴの実を採って味わったり、バッタを捕まえて遊んだりして、子ども達は満足した様子だった。(文責;佐野)

(5 班) 参加者は4人家族で、比較的大きい8歳と5歳の元気な子どもたちだったので、躊躇なく山頂を目指した。ガマズミ、フユイチゴの味覚体験をしてもらったところ積極的に味わって、後でバウムクーエン焼きに飽きたときにも近くで採ってきて食べていた。サワガニを見つけ大喜びしたり、ミツマタの花芽の観察や、クロモジの匂いを嗅いだり、人工林と自然林の違いを見たり、森の効用などを話しながら山頂に着くと、出発時には曇っていて期待してなかった富士山も見え、バッタ捕りに興じていた。(文責;高橋)

(6 班) 小学1年生と2歳の男の子、それとご両親、父親と小学2年生の男の子の合計6名を案内した。2家族とも高山・市民の森が初めてとのこと。森の楽しみ方と山頂からの景色を楽しむことを目的にガイドした。

森を楽しむ、木と親しくなるために、まずは香りから。葉っぱの香りを楽しむため、ミズメの爽やかな香り、クロモジの優しく甘い香りを楽しんだ。サンショウとイヌザンショウの香りの違いも知ってもらった。次は味だ。キハダの樹皮を少しいただき、その苦さを体験した。センブリの花を見て、これも苦い胃薬であることを説明した。また、ヒカゲノカズラの胞子を丸薬に使っていることも話した。甘いものでは今の季節はフユイチゴだ。これは、大人は美味しく感じ、子どもはまあまあの評価だった。おいしそうに見える赤い果実、それはミヤマシキミの赤い実。これは決して食べてはいけない植物であることも知ってもらった。木と遊ぶ楽しみということで、イタヤカエデの種飛ばしやホウノキのお面で遊んだ。

危険なものの一つとしてスギの葉をルーペでじっくり観察してもらい、葉縁がのこぎり状になっているのを確認した。さらに葉にガラス成分を含むので丈夫で手が切れやすいこと、その丈夫さが茅葺屋根として利用されることを説明した。

今回は、森について話をしてみた。スギの葉が燃料としてとても良い材料であること、キノコがなければ森は倒木で山積みになってしまう。キノコが木を分解して土にしてくれていることを説明した。これは子どもが「木はどいうなっちゃうの?」という疑問の答えだ。それから、針葉樹の森と広葉樹の森の違い(感覚的な違いや環境の違い)、高山市民の森は、それぞれが混ざり合った森で、いろんな動物や植物が育つ森にしていることを話した。天に向かってまっすぐ伸びる針葉樹と、光を求めてくねくねうねる広葉樹の形の違いも観察した。

子どもにも大人にも楽しかったと言ってもらえた。こんなふうに森を楽しみながら歩くことを知ってもらえて、よかったと思った。(文責;杉山)

森の散策とバウムクーヘンづくりのスナップ写真



準備体操



木の枝で電車ごっこ



展望台からは富士山も見えた



カモシカもいたよ



まずは卵を割って



生地作りは力がいったよ



うまく焼けたかな



完成だ!